

◇高等学校アンケート調査

1. 調査の実施概要

表 調査の実施概要

項目	内容
調査の目的	高校生の市町村を跨ぐ通学実態、スクールバス等の運行実態等を把握
調査の対象	県内の全高等学校（全 120 校）
実施方法	メールによる配布・回収
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・ 在校生徒数（学年別、出身中学校別）・ 基本的な登校時間（夏季・冬季別）・ 通学手段（夏季・冬季別、登下校別）・ 通学に関する規則・支援等・ スクールバスの運行の有無・ スクールバスの運行概要・ 公共交通での通学に対する意向・ 現状の公共交通に対して話題になった、問題と感ずる事項・ 今後の公共交通に対する要望
回答状況	120 校中 106 校が回答（回収率 88.3%） ※106 校中県立が 92 校（うち特別支援学校 20 校）、私立が 14 校（うち特別支援学校 2 校）

2. 調査結果

【高等学校アンケート調査結果まとめ】

■ 高校生の通学移動実態について

通学先としては、居住自治体内の高校に通学する生徒も一定数存在する一方で、自治体をまたいだ通学を行う生徒が各圏域で存在している。

通学手段としては、夏季と冬季で大きな違いはなく「鉄道」が用いられている。ただし、大崎・栗原圏域や石巻・登米・気仙沼圏域は「保護者の送迎」が全体的な傾向よりも高い状況となっている。なお、スクールバスはどの圏域においても公立・私立関係なく運行していない場合が多い。

→可能な限り保護者の送迎に頼らなくとも自治体を跨ぐ通学も可能になる環境整備が必要

■ 公共交通の利用促進について

回答した高校の約半数が「通学時の公共交通利用を促進したい」と回答しており、その理由としては「通学時の安全確保」や「学校周辺の混雑緩和」「卒業後の生活準備」を意識している場合が多い。そのため既に「学校からの利用の呼びかけ」を行っている事例が一定数存在しており、加えて「チラシ配布」なども行われている。なお、利用を促進している学校の中には「利用マナーの周知」に加えて「バスの時間に合わせた始業時間や下校時間の設定」なども行われている。

一方で「そもそも公共交通では通学できない」といった意見も散見されるとともに「各家庭で経済的な事情もあるため積極的に促進していない」といった考えの高校も多い。

→通学困難地区における対応策の検討や通学における家庭に向けた財政支援が必要

■ 通学利用に向けた問題点について

前述の問題はあるものの、利用を促進していた高校において「減便等で使いにくく（使えなく）なった」や「遅延・運休情報が遅い」「無人駅の治安悪化」「待合環境の向上（猛暑・豪雪対応）」「鉄道運休時の代替交通の確保」「生徒のマナー強化が必要」という問題を指摘する回答も存在した。

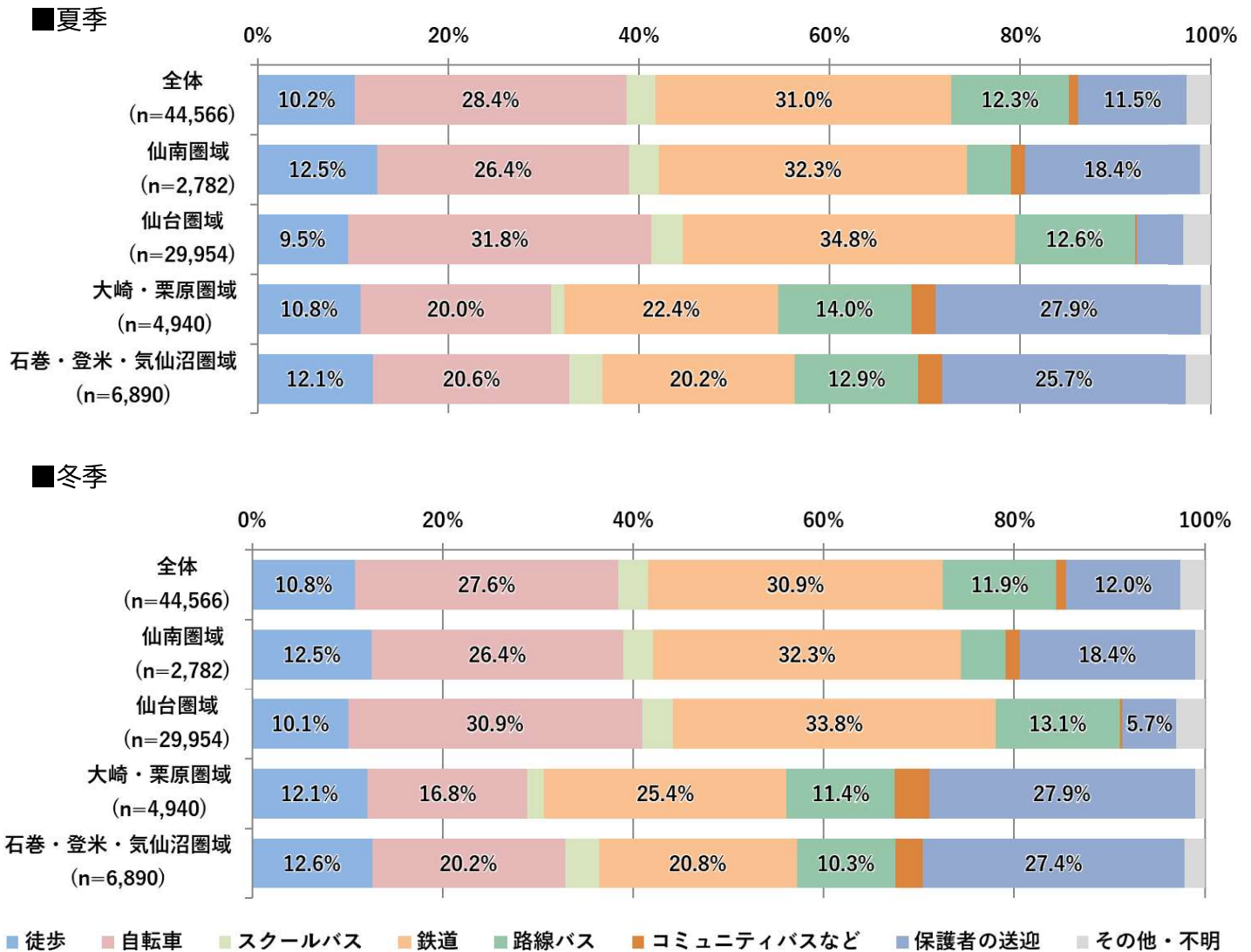
→運行・利用に関する情報発信の強化や通学拠点としての機能強化が必要

(1) 高校への通学手段

高校への通学手段をみると、夏季冬季を通して「鉄道」による移動が最も多く、次いで「自転車」での移動が多くみられた。

圏域別にみると、登下校ともに仙南圏域と仙台圏域では夏季冬季を通して「鉄道」による移動が最も多く、大崎・栗原圏域と石巻・登米・気仙沼圏域では夏季冬季を通して「保護者の送迎」による移動が最も多くみられた。

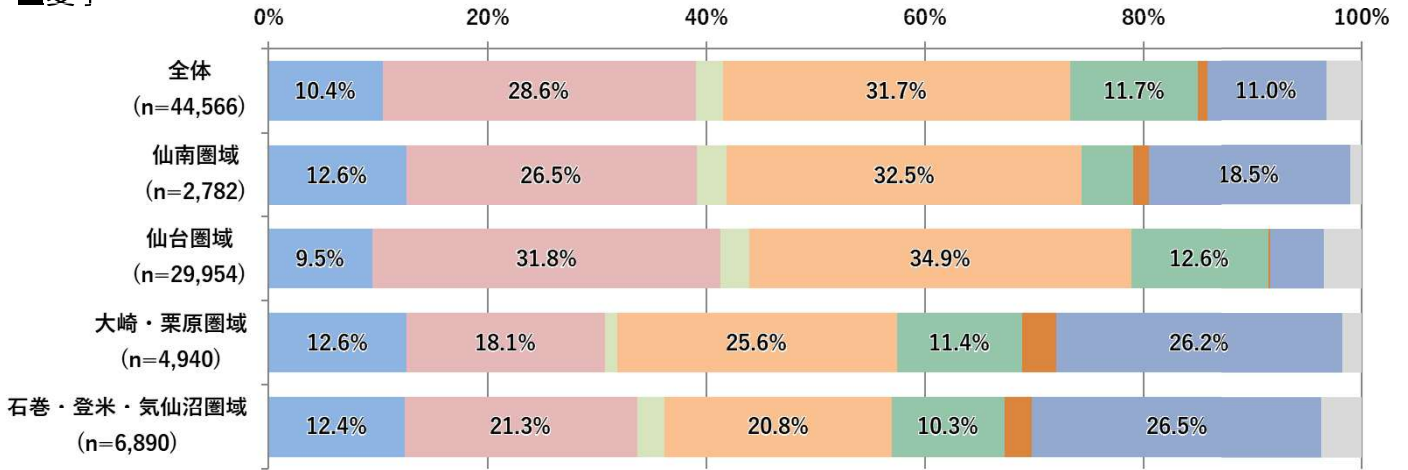
夏季冬季別にみると、仙台圏域では夏季と比べて冬季の「鉄道」や「自転車」による移動が減少し、「徒歩」や「路線バス」、「保護者の送迎」による移動が増加している一方で、大崎・栗原圏域や石巻・登米・気仙沼圏域では夏季と比べて登校時は冬季の「自転車」や「路線バス」による移動が減少し、「鉄道」や「徒歩」による移動が増加している。



※5.0未満非表示

図 圏域別通学手段割合(登校)

■夏季



■冬季



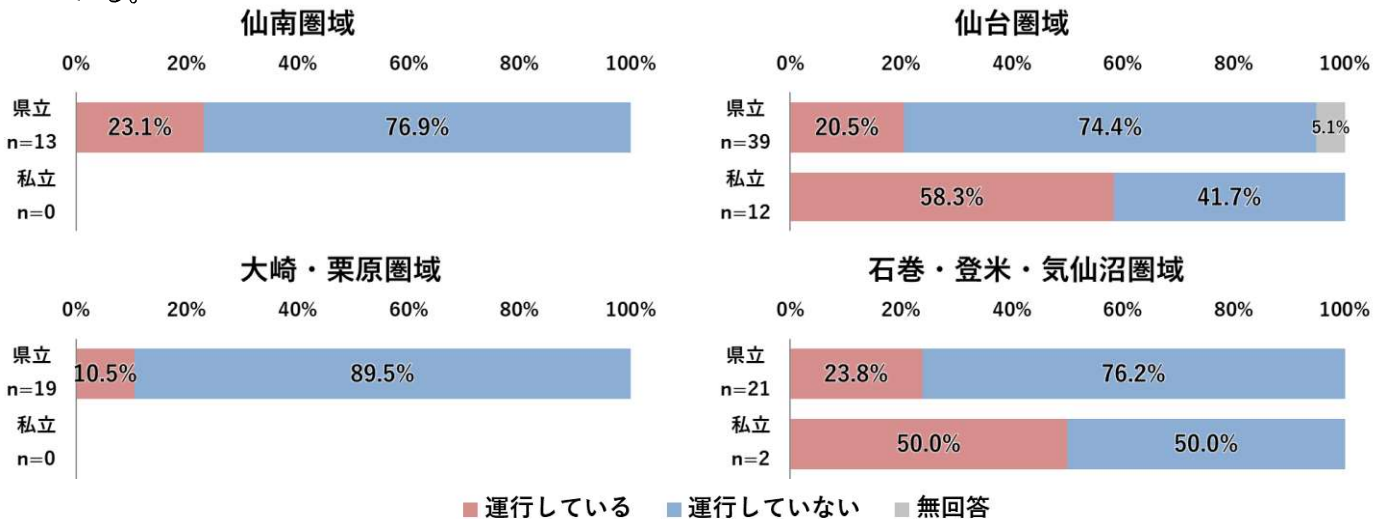
■ 徒歩 ■ 自転車 ■ スクールバス ■ 鉄道 ■ 路線バス ■ コミュニティバスなど ■ 保護者の送迎 ■ その他・不明

※5.0未満非表示

図 圏域別通学手段割合(下校)

(2) スクールバスの運行状況

スクールバスの運行状況を見ると、全ての圏域でスクールバスを運行する高校は少ないが、仙台圏域と石巻・登米・気仙沼圏域ではスクールバスを運行している私立高校が半数以上を占めている。



■ 運行している ■ 運行していない ■ 無回答

図 圏域別・県立私立別スクールバス運行の有無

(3)公共交通の利用促進に向けた取組

1)高校で実施している公共交通の利用促進に向けた取組

高校で実施している利用促進の取組をみると「呼びかけ」や「相談対応」「周知広報」を行っている高校が多く存在する。しかしながら、高校数が多いとはいえ、仙台圏域での取組が大部分を占めている。

また、仙南圏域では「公共交通が不便なので未実施」という回答も確認した。

表 現在高校で行っている公共交通の利用促進に向けた取組

	仙南圏域	仙台圏域	大崎・栗原圏域	石巻・登米・気仙沼圏域	合計
既に利用が根付いているので未実施	0	1	0	0	1
公共交通が不便なので未実施	2	0	0	0	2
寮生活なので未実施	0	1	0	0	1
利用呼びかけ(具体的な内容の記述無し)	0	2	0	2	4
チラシ配布	0	2	0	0	2
ポスター掲示	0	1	0	0	1
時刻表掲示	0	0	1	1	2
相談窓口の設置	0	3	0	0	3
利用マナー講習	0	2	0	0	2
定期購入促進	1	3	0	1	5
保護者送迎の規制(行事時)	0	1	0	0	1
行政・交通事業者への増便依頼	0	1	0	0	1
公共交通に合わせた時間割の設定	0	0	0	1	1

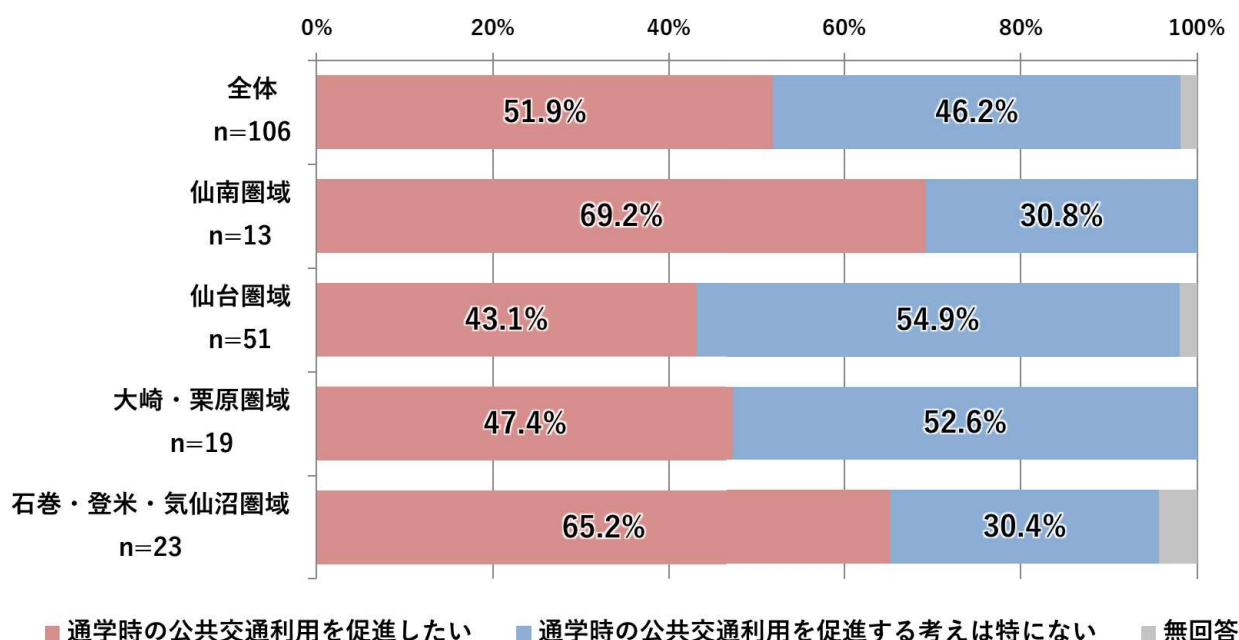
2)公共交通を利用して通学することに対する考え

公共交通を利用して通学することに対する考えをみると、全体では半数以上の高校が「通学時の公共交通利用を促進したい」と回答している。特に、仙南圏域と石巻・登米・気仙沼圏域で「通学時の公共交通利用を促進したい」と回答する高校が多い。

公共交通の利用を促進したい理由をみると「移動手段が限られている」や「公共交通が利用しやすい」という側面はあるものの「卒業後を見据えた社会勉強のため」が最も多い。

また、「安全な通学環境を確保するため」や「保護者送迎による混雑を解消するため」も多いが、公共交通による安全な輸送を求めることに加え、送迎車を減らすことで学校内および周辺の事故を減らす目的を有している。

一方で、公共交通の利用促進を考えない理由をみると「個人や家庭の考え・事情を考慮・尊重しているから」という各自の判断に任せる考え方が最も多いことを確認した。次いで「公共交通が不便・限られているから」という理由も多いが、主に仙台圏域以外の高校からの回答で構成されている。



※5.0未満非表示

図 通学時における公共交通の利用促進に対する考え

表 公共交通を利用促進したい理由

	仙南圏域	仙台圏域	大崎・栗原圏域	石巻・登米・気仙沼圏域	合計
通学手段が限られているから	1	4	2	2	9
公共交通を維持していくため	1	2	1	1	5
公共交通が利用しやすいため	0	6	2	0	8
スクールバスが無い・経営が厳しいため	0	3	0	0	3
公共交通機関とスクールバスが接続しているため	0	1	0	0	1
駐輪スペースが無い・小さいため	0	1	0	0	1
安全な通学環境を確保するため	1	7	4	2	14
保護者送迎による混雑を解消するため	1	3	5	3	12
卒業後を見据えた社会勉強のため	1	8	2	4	15

表 公共交通を利用促進できない理由

	仙南圏域	仙台圏域	大崎・栗原圏域	石巻・登米・気仙沼圏域	合計
公共交通が不便・限られているから	5	2	4	6	17
既に公共交通利用が根付いているから	0	2	1	1	4
徒歩・自転車で通学する生徒が多いから	0	2	0	0	2
個人や家庭の考え・事情を考慮・尊重しているから	3	10	1	5	19
保護者送迎を行っても混雑しない・問題ないから	2	1	1	1	5
身体的理由により利用できないから	1	2	0	0	3
その他	0	3	0	1	4

3)公共交通の通学について配慮している・話題となった・問題と感ずる事項

公共交通の通学について「配慮している事項」「話題となった事項」「問題と感ずる事項」のどの項目においても「利用時のマナー」と「運行内容の不便さ」に関する話題が多い。

特にマナーに関しては仙台圏域の高校で問題意識が高く、改善しようとする取組が盛んに行われている。

運行内容に不満を持っている高校も多いことから、各校で数少ないダイヤに合わせた時間割（授業・部活）の構築も行われている。

表 公共交通の通学について配慮している事項

	仙南圏域	仙台圏域	大崎・栗原圏域	石巻・登米・気仙沼圏域	合計
利用時のマナー教育・巡回指導	2	13	2	4	21
運行に合わせた時間割・部活の設定	6	5	3	5	19
運行遅延時の遅刻・欠席の免除	0	5	3	1	9
大幅な運行遅延時等の生徒・保護者への通知	0	1	0	0	1
保護者に対する事前利用・教育の呼びかけ	0	1	0	0	1
公共交通の利用促進	0	1	0	1	2
教員による定期券切れの確認	0	0	0	1	1
その他	1	2	1	2	6

表 公共交通の通学について話題となっている事項

	仙南圏域	仙台圏域	大崎・栗原圏域	石巻・登米・ 気仙沼圏域	合計
通学路線の廃止・存続について	1	2	1	2	6
ダイヤ・本数・経路の不便さについて	3	3	1	3	10
運行遅延・運休時の対応等について (悪天候・災害等含む)	0	3	1	0	4
スクールバスの運行に関して	1	3	0	0	4
行政・交通事業者に新たな移動手段の要望	1	0	0	0	1
決済方法について	0	0	0	3	3
運賃値上げについて	2	0	0	0	2
利用マナーについて	1	5	0	1	7
周知・利用促進について	0	1	1	0	2
登下校時の安全性について	0	3	0	0	3
その他	0	1	2	0	3

表 公共交通の通学について問題を感じている事項

	仙南圏域	仙台圏域	大崎・栗原圏域	石巻・登米・気仙沼圏域	合計
通学路線の廃止・存続について	1	0	3	3	7
ダイヤ・本数の不便さについて	1	5	3	1	10
公共交通同士の接続性について	0	0	0	1	1
運行遅延・運休時の対応等について (悪天候・災害等含む)	0	4	2	1	7
スクールバスの運行に関して	0	2	0	0	2
乗降場所の位置について	1	1	1	1	4
待合環境について	0	0	0	1	1
車両の老朽化について	1	0	0	0	1
通学時間帯の需要集中による車内混雑について	0	1	0	1	2
利用マナーについて	1	7	1	2	11
利用促進・周知について	0	0	1	0	1
登下校時の安全性について	0	0	0	2	2
その他	1	1	1	0	3

4)現状の鉄道やバスなどについて話題となった・問題と感ずる事項

現状の鉄道やバスなどについて話題になった・問題と感ずる事項をみると「ダイヤ・本数の不便さについて」が特に多く挙げられている。

表 現状の鉄道・バスなどへの話題や問題と感ずる事項

	仙南圏域	仙台圏域	大崎・栗原圏域	石巻・登米・気仙沼圏域	合計
ダイヤ・本数の不便さについて	3	7	2	5	17
公共交通同士の接続性について	0	0	1	2	3
運行遅延・運休時の対応等について (悪天候・災害等含む)	0	4	1	0	5
通学時間帯の需要集中による車内混雑について	0	4	0	1	5
スクールバスの運行に関して	0	0	0	0	0
乗降場所の位置について	0	3	1	1	5
待合環境について	1	2	2	3	8
無人駅化について	0	1	0	0	1
利用マナーについて	0	1	0	1	2
登下校時の安全性について	0	1	1	1	3
その他	1	1	0	2	4

(4)公共交通に対する意見

公共交通に対する意見をみると、これまでの回答と同様に「ダイヤ・本数・経路の不便さについて」の要望が多い。

また「通学路線の廃止・存続について」は石巻・登米・気仙沼圏域からの回答が多く、通学手段としての公共交通の維持に対する危機感が高いことを確認した。

表 公共交通に対する意見・要望

	仙南圏域	仙台圏域	大崎・栗原圏域	石巻・登米・ 気仙沼圏域	合計
通学路線の廃止・存続について	1	0	1	4	6
ダイヤ・本数・経路の不便さについて	6	5	3	4	18
公共交通同士の接続性について	0	1	0	1	2
運行遅延・運休時の対応等について (悪天候・災害等含む)	2	4	1	1	8
スクールバスの運行に関して	0	1	0	0	1
運賃高騰・補助について	2	2	0	0	4
利用マナーについて	0	1	0	0	1
周知・利用促進について	0	1	0	0	1
登下校時の安全性について	0	2	1	0	3
その他	1	3	0	2	6